

財団だより

第141号

2014.3

多摩川

事業年報特集号



Photo & Text 遠藤穎彦 (Hidehiko Endo) 渋谷区在住

■ 陸橋付近 ■

拝島付近から秋川に向う陸橋の両岸一帯。

昭和60年代に多摩川で最も新しい橋が陸橋と云われていた橋も、新しい橋が次々と建て替えられた。秋川の東の玄関にあたるこの橋付近は、河川敷公園が整備され、市民のスポーツの場・憩いの場として親しまれてきました。晴れた日には滝山丘陵、奥多摩の山々が眺められます。

Contents 目次

| | |
|------------------|----|
| 特別寄稿 | 2 |
| 多摩川に学ぶ | 3 |
| 多摩川散歩 | 4 |
| 私と多摩川 | 5 |
| たまがわスケッチ散歩 | 6 |
| 歴史・多摩川 | 8 |
| インフォメ・多摩川 | 9 |
| 財団事業年報特集 | |
| 事業日誌 | 14 |
| 研究助成事業 | 16 |
| 第5回社会貢献学術賞 | 27 |

特別寄稿

企画展「谷戸のおはなし」を開催して



バルテノン多摩歴史ミュージアム
学芸員
仙仁 径

多摩川の支流の一つ、乞田川を遡った多摩センター駅近くに立地する多摩市立複合文化施設、通称バルテノン多摩には、多摩丘陵の開発の歴史をテーマとする博物館、歴史ミュージアムがある。当館では平成25年11月14日から平成26年3月10日にかけて、「谷戸のおはなし～多摩の大地に刻まれたシワ～」と題する展示を開催した。

さて、「谷戸」あるいは「谷津」をご存じだろうか。関東地方やその周辺で、浅く細長い谷状の地形を表す言葉である。関東平野にはところどころに丘陵や台地といった小さな起伏があり、そのようなところに谷戸地形はある。谷戸地形は谷底に連続した平坦面があるのも特徴だ。私は植物観察会を担当しているため多摩丘陵を歩く機会が多いのだが、奥へと続く「谷戸田」と雑木林が織りなす谷戸の風景はいつ見ても心がなごむ。谷戸では多様な微環境に合わせて多様な生物がくらししており、観察場所としても魅力的である。ところが、ふと「なぜ多摩丘陵には谷戸があるのだろうか？」と考えてみると、意外に谷戸地形のことを知らないことに気づいた。それが今回「谷戸のおはなし」を企画したきっかけである。



一本木谷戸（町田市小野路町）

展示のため多摩丘陵西部の地史について専門家に話を訊くと、興味深いことがわかってきた。多摩丘陵西部の地層は、下から上総層群、一部地域に御殿峠礫層、そして関東ローム層となっている。上総層群は百数十万年前、多摩地域が海底だった時代に堆積した地層で、貝など海の生物の化石を産出する。御殿峠礫層は約50万年前に古相模川が古多摩川方面に流れていた証拠となる地層であるが、古相模川が再び相模湾方面に流れるきっかけとなった地殻変動についてはよくわかっていないようだ。谷戸地形の形成は、関東ローム層の形成と同時に進行し、谷が削られながら谷底に土砂が堆積していったと推測されるが、よくわかっていないとのことだった。足元の歴史について「わかっていないことがあった」のも重要な収穫であった。谷戸地形はプレート境界付近の地殻変動が激しい地域で、複雑な地史を経て作られた地形であり、世界的に見てほぼ日本列島の一部にしかないのではないかと聞いた時は目から鱗が落ちる思いであった。



薄葉谷戸（稲城市坂浜）

また、谷戸と人との関わりについても地域の方から興味深い話を聞くことができた。谷戸ではその豊富な水資源を利用して古くから稲作が営まれてきた。水の抜けない湿田を多摩では「ドブツタ」などと呼んでおり、作業のためドブツタに入れた馬が沈んで死んでしまったという昔話を聞いた。谷戸地名について、小さな谷戸ではその谷戸の入口に居を構える家の屋号をもって「～の谷戸」と呼ぶことが多かったようだ。地名については引き続き調査を行い、調査結果をまとめたいて考えている。

多摩丘陵は一部を除いて地形が大きく改変されており、残念ながら足元の歴史に思いを馳せる機会はほとんどない。本展示をきっかけに、地域の足元の歴史にも関心を持っていただけたらと思う。

多摩川に学ぶ

目指せ！秋川流域ジオパーク



あきる野市環境経済部環境政策課
課長

吉澤 桂一

ジオパークとは、ジオ（地球）に関わる様々な自然遺産（地質、岩石、断層など）を含む自然豊かな公園のことです。

ジオパークは、これらのジオに関わる遺産を保護し研究活用するとともに、自然と人間との関わりを理解する場所として整備し、科学教育や自然環境教育などの場として、また新たな観光資源として地域振興の一助となることが期待されます。

秋川・平井川流域に立地する、あきる野市、日の出町、檜原村は、東京都の西に位置する清流と豊かな自然に恵まれた地域であり、多くの古き良き文化が息づいている地域です。



神戸岩（チャート）



弘沢の滝

また、秋川流域の大地は3億5千万年前の古生代から新生代までの地層が存在し、様々な地質時代の地層が複雑に分布し、断層や褶曲が稠密に発達しており、秋川流域に特有の地形をつくり出しています。これらの地層からは、約300万年前に生息していたミエソウという古代ゾウや約1,500万年前に北太平洋の海岸に生息していたカバに似た大型哺乳類パレオパラドキシアをはじめ、かつてこの地域に生息・生育していた動植物の化石が数多く発見されており、日本でも有数の化石の宝庫として知られています。

このように、流域一帯が歴史を語る博物館ともいえる豊かな「大地の恵み」は、全国有数の貴重な財産であると考えています。



垂直に立った地層



ウグイ

このような豊かな自然環境と文化、そして貴重な地形・地質を保全するとともに、これらの情報を流域の内外に広く発信し、観光事業の推進や地域活性化などの活用を図るため、有識者をはじめ、各種団体の代表者、流域住民などで組織する秋川流域ジオパーク推進会議を設置し、日本ジオパークの認定に向けた取組を行っています。

今後の主な取組としては、推進会議を発足してまだ2年目であることから、地域のジオを知る勉強会、先進地域への視察、各種街おこしイベントにおける展示や化石鑑定団などを開催し、ジオパークのPR活動を行うとともに、流域の魅力を伝えるガイドの育成に取り組んでいます。また、新たなジオスポットの開拓に向けて地元の有識者等による地質調査や岩石、化石の収集・整理も行っています。

日本ジオパーク認定については、平成30年を目標としていますが、認定されるにはしっかりした運営組織と運営・財政計画を持つことや拠点の整備などいくつかの厳しい条件をクリアしていかなければなりません。これらの課題を解決するため、今後は、組織の充実を図るための人材育成や拠点やジオスポットの整備を行っていく予定です。



化石発掘体験

また、この取組に賛同していただける方々に呼びかけ、秋川流域ジオパーク推進会議友の会を設置し、推進していく所存です。皆様のさらなるご支援、ご協力をいただきたいと考えておりますので、皆様も是非友の会への加入をご検討いただきますようお願い申し上げます。

秋川流域は都心に近く豊かな自然の中で、ハイキング、バーベキュー、釣りなど、様々なレクリエーションが楽しめますので、是非一度お立ち寄りください。皆様のお越しを関係者一同お待ちしております。

多摩川散歩

多摩川の渓谷沿いをポタリング



奥多摩・青梅レンタサイクル
トレッキング

沼倉 正毅

徒歩よりは早く、車よりはのんびりと移動が可能な自転車。そんな自転車を奥多摩駅近くで借りて青梅街道（国道411号）や吉野街道、そして裏道を走り青梅までの多摩川沿い20キロの道のりを走り青梅で乗捨てる事が2011年より可能になりました。ポタリングというワードは聞き慣れない方も多いとは思いますが、サイクリングよりもっと散歩的な要素が強く、自転車であちこちを気ままにぶらつくという意味があります。奥多摩から青梅までは高低差約150メートルあり基本的に下り坂になります。奥多摩・青梅には数々の観光スポットがありますが、路線バスの無い箇所や本数が少なかったり、自動車での観光は駐車スペースが少ないこともあり、気に入った場所に気軽に止めることができないという問題もあります。自転車なら小回りがきき、エコなうえ、駐車スペースも気にせず、有酸素運動も行なえるという利点があります。



奥多摩むかしみち紅葉風景

サイクリングとトレッキングの魅力を両方味わってもらいたいという願いから店名を奥多摩・青梅レンタサイクル「TREKKLING（トレッキング）」としました。現在40台以上の自転車がありますが、クロスバイクやマウンテンバイクというスポーツ自転車に特化しております。山間部である奥多摩・青梅ではママチャリと言われる一般的な自転



癒しの裏道サイクリング風景



サイクリング風景

車よりもスポーツ自転車の方がはるかに快適に走行できるからです。また体力に自信の無い方向けに電動アシスト自転車も15台をご用意しております。ご利用者には奥多摩・青梅の魅力がたっぷり詰まった20ページにわたるオリジナルサイクリングマップを進呈しております。

お薦めコースは奥多摩から青梅へ下る「癒やしの裏道」と奥多摩駅から奥多摩湖へ向かう「奥多摩むかし道」。癒やしの裏道にはJR青梅線と並行して走れる細い道や河原へ降り



奥多摩むかし道西久保の展望台紅葉

られる場所も通ります。少し寄り道すれば、コケの生える神秘的な溪流「海沢（うなざわ）三滝」なども楽しめます。奥多摩むかし道は現在の青梅街道が開通される前の旧青梅街道になり、車もほとんど通りませんので初心者の方におすすめしております。多摩川に掛かる吊り橋「しだら橋」や「道所橋」、都指定の天然記念物石灰岩大壁がある「白髭神社」等が見所です。

出発前には、自転車の扱い方、交通ルール、必ず歩行者を優先すること、危険箇所の説明を徹底し皆様笑顔で帰宅できるよう努めております。また奥多摩には奥多摩時間というものがあり、都会で生活されている方よりもゆったりとした時間の流れがあります。そこで生活されている方が早い自転車のスピードに驚かれないよう気配りする事も大切です。

新緑の季節、紅葉の季節、自動車や徒歩とはまた一味違ったポタリングで多摩川の自然美を楽しんでみるのは如何でしょうか！



海沢三滝のひとつ大滝

【店舗情報】奥多摩・青梅レンタサイクル
トレッキング（TREKKLING）

〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川197

<http://www.trekking.jp/>

e-mail: info@trekking.jp

携帯: 080-1024-4617 (受付時間 9:00 ~ 19:00)

電話: 0428-74-9091 (受付時間 土日祝日 9:00 ~ 17:00)

営業時間 9:00 ~ 17:00 (貸出し受付は 15:00 まで)

私と多摩川

「はけ」の魅力を伝えたいと立ち上げた地域雑誌
「き・まま」



き・まま編集部

武蔵野台地には、崖線と呼ばれる段差数メートルの長い崖が続いている。これは、古代多摩川が台地を削った名残りといわれる。そのひとつである国分寺崖線は立川に始まり、国分寺、小金井そして調布から世田谷へと続き、最後は田園調布で終わっている。武蔵野の方言では、これは「はけ」とか「まま」とか呼ばれている。都市化が進んだ現代でも、このはけは地元の人に愛されており、切り崩されることなく昔のままの姿で残っている場所も多い。崖線の斜面に残る雑木林、その根元から湧く清水、その間を縫うように走る坂道は、この辺りの特徴づける景観で、家々が立ち並ぶ東京郊外でも、ここだけは武蔵野と呼ばれた時代を彷彿とさせるのだ。

そうしたはけ近辺の魅力的な場所や人を紹介する地域雑誌を我々が創ろうと思ったのは、我々自身がそのはけに魅了された人間だからにほかならない。三年ほど前、たまたま相次いで小金井に引っ越してきた元編集者三人。会社員時代から繋がりがあり、子育てのために仕事を辞めていたが、この地の魅力を雑誌で紹介したいということで意気投合。さらに同じような境遇の友人ふたりの参加を得て、雑誌「き・まま」は立ち上がるようになった。

雑誌を作るにあたって我々がまず決めたのは、自分たちが好きなことだけを紹介する、ということだ。自分たちでお金を出し合って作るのだから、すべてのペー



小金井・国分寺・吉祥寺などの書店・雑貨店等でNo.1～3発売中。
B5変形／40頁／オールカラー／税込500円（税5%）
URL:<http://ruelle-studio.net>

ジを好きなことで埋めていきたいと思うのだ。そして、創刊号の巻頭特集に選んだのは「はけのおいしい朝市」。スタッフのひとりの自宅近くで、毎月第一日曜日に開かれているイベントだ。彼女が最初にこれに出会ったとき、「こんなにセンスのいいイベントが小金井であるなんて」と驚いたという。その驚

きがそのまま雑誌の記事になった。

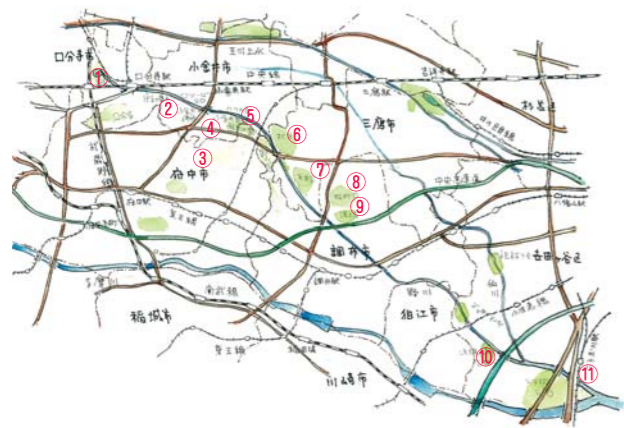
また二号では、国分寺にかつて珈琲豆の焙煎工場を持っていたコクテル堂の記事を載せているが、それは別のスタッフが通うヨガの教室でコクテル堂の創業者の奥さんと知り合ったことがきっかけだ（現在、工場は山梨県に移転）。そんなふうに、生活をしながら見つけた楽しさや驚きを記事にする、それが私たちの雑誌作りの基本である。

だから、記事作りには時間を掛ける。地元のことを地元の人に紹介するのだから、通り一遍の取材では納得してもらえないし、自分たちも楽しくない。四回五回と取材相手のところに足を運び、その場所を見たり話を聞いたりすることで、相手のことを深く知っていく。その過程が何より楽しい。一度取材すると、相手と親しくなり、その後も関係が続くことも珍しくない。そうして繋がりがどんどん広がっていく。それは商業誌ではありえない、地域雑誌だからできることなのだ。

二年前に創刊して現在まだ三号め。子育てしながらの雑誌作りなので、刊行ペースはなかなか縮まらない。しかし、なにごとにも早く、大量にということが求められるこのご時世、ひとつくらいこんなスローペースな雑誌があってもいいだろう。そして、はけという昔ながらのよさを残す場所には、そのゆったりペースが似合っているのではないだろうか。

Photo by Shigeru Inoue





たまがわスケッチ散歩 (13)

野川流域 (国分寺市・小金井市・調布市・世田谷区)

野川は国分寺駅の西にある日立中研の構内が源流で、古多摩川の河岸段丘のハケ水を集めながら東南方向に下り、世田谷区の子玉川で多摩川と合流する総延長約20kmの小河川。

古多摩川の河岸段丘は国分寺崖線と呼ばれ、南傾斜で富士山が遠望される景勝地区。古代から湧水と野川の水を求め、動植物が集まり、田や畑ができることで多くの人が集まり、神社仏閣を始め教育芸術文化などが発展するベルトラインとなっている。



① 日立中研 大池
春と秋 年間2日だけ一般に公開される野川の源流の一つ。構内に入るとすぐに深い渓谷に架かる返仁橋を渡り広い原の下に大きな池がある。構内敷か所からの湧水を集めすぐ下を走るJR中央線をくぐって野川は始まる。



② 殿ヶ谷戸庭園
大正2年当時の満鉄副総裁の別邸として造られたが、三菱財閥の岩崎弥太郎氏の手にわたり、現在は東京都が管理している。国分寺崖線をまたいでおり、ハケ上はこのような明るい芝生の西洋庭園、ハケ下は小さな滝が落ちる次郎弁天池を周回する日本庭園となっている。



③ 国分寺跡
聖武天皇の天平時代の勅により全国に出来た国分寺と国分尼寺のなかの武蔵国分寺がJR国分寺駅の南側約20分のところにある。隣にある国分尼寺と合わせるとかなりの広さで、十分1日の散歩コース。すぐ隣にはハケの湧水群のお蔭の道が続いており、散歩のグループが絶えることがない。スケッチは7重の塔の跡で遠景に金堂跡が見える。



⑦ 東京天文台
国立天文台三鷹キャンパスが正式名。JR三鷹と京王線調布駅のちょうど中間の野川の国分寺崖線の台地の上にある。決められた範囲のみではあるが見学自由。スケッチはゴーチェ午環という望遠鏡。



⑤ ⑤ 野川
JR小金井駅より南へ約15分。野川のほとりに出るがそこは広大な野川の遊水池。国分寺崖線が最もよく見える場所。8枚組で描いたリングパノラマの5枚分。手前の芝生広場は小金井たんぼ跡。左は野川の上流、右は下流、背側対岸は武蔵野公園と広大な自然広場となっている。



⑧ 武蔵野公園
野川の多摩川への合流地点であり、東急東横線二子玉川駅の西 多摩川の河川敷内にある。島の中は武蔵野の面影を残す雑木林で小さな回遊式公園。その裏はよく整備された二子多摩川緑地公園に続いている。遠景の橋は246号線でビル群は川崎市。



④ 小金井神社
JR小金井駅より南へ約10分 駅前の雑踏を過ぎるとまったく静寂な別世界が広がる。しかもかなり傷んでいる広大な境内の神社が現れる。調べてみると国分寺崖線の上の森林の中にあり、明治の初めに建てられた菅原道真公の天満宮であるとのこと。



⑥ 野川公園
調布・小金井・三鷹の3市にまたがる40万㎡に及び広大な公園で野川と東八道路で3つに分断されている。昭和49年から国際基督教大学のゴルフ場を買収改修してできた公園。それぞれが広々とした芝生公園、スポーツ公園、自然公園と趣が変わる。スケッチは自然公園の中のほとろの里右は彼岸花の群生地。

画と文 **野尻明美** (のじりあけみ)
一級建築士、工学博士(東北大学)
科学技術庁長官賞、紫綬褒章 受章
東急ハンズ大賞クラフトの部 入選
「水彩スケッチと10の活用術」
日貿出版社 他技術書多数



⑧ 神代植物園
調布市にある都内では唯一の都立植物公園。園内には4500種 10万株の植物が植えられ、梅や桜の名所でも有名なバラ園は特にすばらしい。ハケ下にはハケの湧水を使い水生植物園も併設されている。



⑨ 深大寺 天台宗の別格本山であり、国分寺崖線をまたぐように建っている。境内にはハケの湧水群があり名物のそばやの池に引き込まれている。裏山は神代植物公園に続いている。



⑩ 次大夫堀公園 民家園
小泉次大夫が開発した六郷用水の別名が次大夫堀で野川から取水した流れを浄化した流れで田んぼや池を潤している。小田急線成城学園前から徒歩約15分のところにある。公園全体は世田谷付近の江戸時代後期から明治時代の風景を再現している。スケッチは左より旧加藤家住宅、厠(トイレ)、稲わらの三角はこえだめ、大きな茅葺は旧城田家、そのうらな名主の旧安藤家その右のひときわ高いかやぶきは旧秋山家土蔵、その右のかやぶきは消防小屋、火の見やぐらも見え。そのさらに右はかじ屋、右端はかやぶき屋根のふき方作業の練習用の小屋とのこと。縦一7枚組の6枚掲載。

歴史／多摩川 アミガサ事件 100年



NPO 法人多摩川エコミュージアム
監事 長島 保
(地域史研究家)

今年9月16日は、多摩川下流沿岸の築堤を促したアミガサ事件から100年の記念すべき日を迎える。それは、大正3年(1914)のことであった。

「村民大挙陳情 多摩氾濫に苦しめる四ヶ村民遂に激発して当局に肉薄す」と、『横浜貿易新報』(現神奈川新聞)は、翌日の紙面で大きく報じた。この16日の未明、橘樹(たちばな)郡御幸(みゆき)



集結地となった上平間の八幡大神

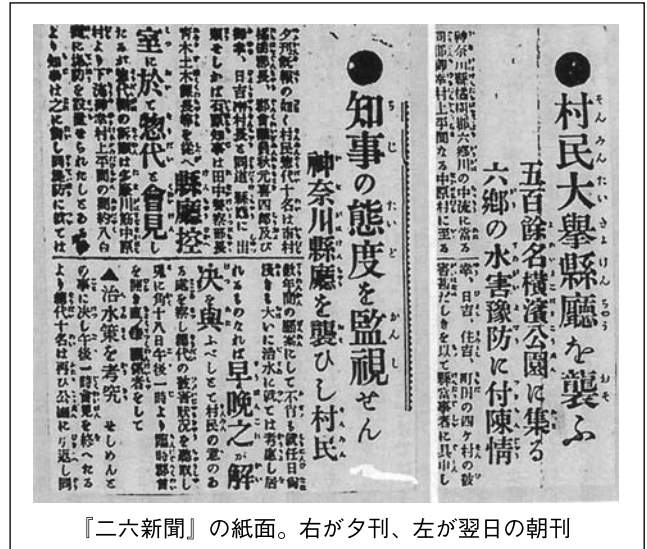
村の住民らは、上平間の八幡大神境内に集結した。申しあわせで、各家から男子が一人ずつ、全員が目印のチョンポリガサをつけていた。この笠、農作業に用いる笠で、

アミガサの名で報道され、事件の名称となった。

わらじ履きで野良着姿の一団は、警察の厳しい警備の目を避け、鹿島田、小倉を通過して、鶴見川の末吉橋を渡った。出水直後で、濁流が橋上を洗い、月明かりで橋の欄干がわずかに見え隠れしていた。その濁流のなか、胸まで浸かって、互いに声をかけあいながら必死に川を渡った。こうして、御幸村を中心に、日吉、住吉、町田の四ヶ村民は、神奈川県庁のある横浜をめざしたのだ。

途中、警察の警戒線にぶつかり、各所で「激しいもみあいをしながら突き進んだ」「おっかなかったね」。当時20歳、一行の最年少で参加した上平間の鈴木秋平さんは、三十数年前の聞き取りで体験を語ってくれた。最後は、目指す県庁には行けず、近くの横浜公園に集められたという。結局、代表たちだけが、県知事との面会を許され、知事に嘆願した。

だが、時の石原健三県知事は、多摩川水害の苦難を訴え、築堤の早期施工を求める声に耳を傾けず、「大挙陳情の不穩当」を説諭するありさまで、具体



『二六新聞』の紙面。右が夕刊、左が翌日の朝刊

的回答は何ら示さなかった。これを聞いた公園待機の村民たちは、県知事の誠意ない態度に激高、帰途知事官邸に押し寄せると言い出す始末。やがてリーダーたちの説得になだめられ、あくまで築堤実現を目指そうと励ましあって帰村。その三日後、関係町村の代表らが、川崎町の橘樹郡役所に集まり、多摩川築堤期成同盟会を結成して、築堤運動を強力に押し進めることをとりきめた。

このアミガサ事件の新聞報道、その後の調査で12新聞、14紙に及んだことが確認できた。当時の大新聞、『国民新聞』や『二六新聞』は夕刊・朝刊で大きく扱った(上段)。「四ヶ村民大挙/堤防築造を請願」と『東京毎日新聞』は一面一段で掲載し、『萬朝報』は「六百の蓑笠隊/県庁に押寄せんとす」と報じた。また、『報知新聞』は「村民一千余人県庁に押寄せ/堤防築造の陳情」と記し、「二千の村民神奈川県庁に迫る」と『東京毎夕新聞』は扱った。

有力紙『国民新聞』は、京浜版で「村民千名県庁に押寄せ/多摩川堤防増築問題陳情」と大きく取り上げた。ほかに『日本』、『読売新聞』、『中央新聞』、『東京朝日新聞』、『時事新聞』、『やまと新報』が報じた。

どうやらこの事件、地域を越えたニュースとなって流布されていた。地元では、これを機に多摩川築堤運動が大きく展開されていくことになる。



←左写真・目印のチョンポリガサ(復元)

インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等の3月から6月頃まで行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

☆ 美しい多摩川フォーラム

1. 第6回美しい多摩川フォトコンテスト入選作品展&野尻明美氏の淡彩スケッチ画展(3月18日~23日: 青梅市立美術館)
2. 第2回桜守学校(3月26日: 都立小金井公園/主催: 美しい多摩川フォーラム/後援: 公益財団法人東京都公園協会、小金井市)
3. 多摩川夢の桜街道・駅からハイキング(4月4日: 羽村駅~拝島駅、
共催: JR東日本、西武鉄道、多摩モノレール、美しい多摩川フォーラム)
4. 同 桜の札所巡り(4月5日: 大田区・川崎市、主催: 美しい多摩川フォーラム/共催: 大田観光協会
/後援: 大田区、川崎市、東京急行電鉄、京浜急行電鉄)
5. 同 桜の札所巡り(4月9日: 高尾・多摩森林科学園、共催: リビング多摩、美しい多摩川フォーラム)
6. 同 桜の札所巡り(4月16日: 奥多摩湖畔・大麦代~奥多摩むかしみちを歩く~共催: リビング多摩、
美しい多摩川フォーラム)
7. 東北・夢の桜街道(5月1日: 第3回“美しき桜心の物語”の語り会/五十九番・盛岡城跡公園、岩手
県盛岡市民文化ホール、語り部・平野啓子副会長)
8. 美しい多摩川フォーラム・平成26年度総会(5月25日10時~12時、昭島市フォレスト・イン昭和館)
9. 多摩川一斉水質調査(6月8日)

問合せ先

美しい多摩川フォーラム事務局(青梅信用金庫 地域貢献部内)

担当: 宮坂/土方/及川

TEL: 0428 - 24 - 5632 FAX: 0428 - 24 - 4650

E-mail: forum@tama-river.jp URL: <http://tama-river.jp>

☆ みずとみどり研究会

第11回身近な水環境の全国一斉調査のお知らせ

日 時 2014年6月8日(日) 世界環境デー(毎年6月5日)に近い日曜日

測定項目 気温、水温、COD、その他(任意)

測定方法 取扱説明書にもとづき、調査キット(CODパックテスト等)で測定
(参加申込者に2014年5月頃に配布予定)

参加費 無料

参加申込と締切り

同封の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の事務局(みずとみどり研究会)に、
2014年3月10日(月)までに必ずご送付下さい。

申込み・お問い合わせ先：全国水環境マップ実行委員会 事務局 みずとみどり研究会

連絡先 〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202

TEL/FAX 042-327-3169 E-mail : mizutomidoriken@ybb.ne.jp

☆ むさしの化石塾

室内作業の日程

- ・2/22(土) むさしの化石塾 化石教材の調べ学習・室内作業
- ・3/15(土) むさしの化石塾 化石教材の調べ学習・室内作業
- ・4/19(土) むさしの化石塾 化石教材の調べ学習・室内作業
- ・5/24(土) むさしの化石塾 化石教材の調べ学習・室内作業

日 時：14時00分～16時00分(2時間)

場 所：武蔵村山市中央3-20-7 むさしの化石塾 教室内

最 寄：武蔵村山市役所前バス停下車徒歩3分 参加費：1,000円

要事前申し込み 連絡先：geo@extra.ocn.ne.jp 参加費：1,000円

メールにて住所・氏名・学年など、連絡先を明記の上、送信下さい。

福嶋 徹

GeoWonder 企画 むさしの化石塾

〒208-0003 東京都武蔵村山市中央3-20-7 MKJ事務所

むさしの化石館 042-567-1095 (FAX)

むさしの化石塾 代表 福嶋 徹 090-1769-8020

☆ 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

野川せせらぎ教室～世田谷区成城四丁目付近の野川

・4月20日(日)・5月25日(日) 午前9時30分～11時30分 要申込

初夏のバードウォッチング～多摩川周辺

・5月24日(土) 午前9時30分～11時30分 要申込

世田谷トラストまちづくりビジターセンター「身近な自然と触れ合うミニイベント」

～世田谷区成城4-29-1(野川沿い) / TEL03-3789-6111

・原則毎月第3土曜日 午前10時～正午 要申込

(4月のみ、4/6(日) さくらカフェ in 野川 午前10時～午後3時頃 申込不要)

【申込・問い合わせ先】(一財)世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課

TEL03 - 6407 - 3311 FAX03 - 6407 - 3319

財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

☆ 多摩川大学ふれあい移動水族館

| | イベント | 内容 | 時間 | 対象 | 申込み | 費用 | 場所 | 交通 |
|-------|--------------------------------|--|---------|-----------------|-----|--------|-------------------------------|-----------------------|
| 3月1日 | 谷中湖魚とのふれあい教室・移動水族館 | ふれあい移動水族館、自然環境紙芝居 渡良瀬遊水池・谷中湖は埼玉県・群馬県・栃木県・茨城県の4県をまたぐ人工の湖です。 10時より開始、12時20分 駐車場完備 多摩川環境紙芝居 | 10時～12時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 自由 | 参加無料 | 栃木県藤岡町渡良瀬遊水池会館 栃木市藤岡町藤岡1788番地 | 駐車場あり |
| 3月2日 | おさかなポスト見学学習会 | おさかなポストの紙芝居。 多摩川の生物多様性と外来種について学びます。 おさかなポストの魚たちにエサやり体験ができます。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 3月8日 | 3.11東日本大震災追憶と鎮魂 東北復興応援 多摩川燈籠流し | 多摩川美化活動・魚の放流体験・灯ろう流し ※ボランティアさん募集 詳細お問い合わせ下さい。 | 14時～19時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 自由 | 参加無料 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 3月9日 | 麻布大学講演会 多摩川の生物多様性とおさかなポスト | 再生された多摩川、生物多様性と外来種問題をお話します。 | 13時～16時 | 小学生高学年以上 | 要 | 参加無料 | 麻布大学生命・環境科学部1階(高大連携室) | 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71 |
| 3月15日 | 多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 マルタ産卵観察会 | 多摩川に産卵遊上してきたマルタを観察します。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 3月16日 | おさかなポスト見学学習会 | おさかなポストの紙芝居。 多摩川の生物多様性と外来種について学びます。 おさかなポストの魚たちにエサやり体験ができます。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 3月22日 | 多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 マルタ産卵観察会 | 多摩川に産卵遊上してきたマルタを観察します。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 3月23日 | おさかなポスト見学学習会 | おさかなポストの紙芝居。 多摩川の生物多様性と外来種について学びます。 おさかなポストの魚たちにエサやり体験ができます。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 3月29日 | 多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 マルタ産卵観察会 | 多摩川に産卵遊上してきたマルタを観察します。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 3月30日 | おさかなポスト見学学習会 | おさかなポストの紙芝居。 多摩川の生物多様性と外来種について学びます。 おさかなポストの魚たちにエサやり体験ができます。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 4月5日 | 多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 | 多摩川に産卵遊上してきたマルタを観察します。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 4月6日 | おさかなポスト見学学習会 | おさかなポストの紙芝居。 多摩川の生物多様性と外来種について学びます。 おさかなポストの魚たちにエサやり体験ができます。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 4月12日 | 多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 | 多摩川に産卵遊上してきたマルタを観察します。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 4月13日 | おさかなポスト見学学習会 | おさかなポストの紙芝居。 多摩川の生物多様性と外来種について学びます。 おさかなポストの魚たちにエサやり体験ができます。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 4月19日 | 多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 | 多摩川に産卵遊上してきたマルタを観察します。 | 14時～16時 | 全年齢 小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区 稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |

| | | | | | | | | |
|-------|--------------------|---|---------|----------------|----|--------|-------------------------|------------------|
| 4月20日 | おさかなポスト見学学習会 | おさかなポストの紙芝居。多摩川の生物多様性と外来種について学びます。おさかなポストの魚たちにエサやり体験ができます。 | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 4月26日 | 多摩川ジュニアガイド多摩川自然観察会 | アユの遡上観察会 | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 4月27日 | おさかなポスト見学学習会 | 多摩川に仕掛けてある外来種調査用定置網の網揚げ体験。胴長をお持ちの方は持参、または濡れても良い服装と靴(サンダル不可)。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。(有料) | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 4月29日 | 二子玉川はなみずきフェスタ | ふれあい移動水族館や多摩川天然アユが食べられます。おさかなポストブースにいらしてくださいね。 | 10時～16時 | 全年齢 | 自由 | 参加無料 | 多摩川河川敷 兵庫島河川公園 | 世田谷区二子玉川 駅下車5分 |
| 5月3日 | 春の多摩川アユまつりおさかなポスト前 | アユの遡上観察会・放流体験会 | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区おさかなポスト前の多摩川 | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 5月4日 | おさかなポスト見学学習会 | 多摩川に仕掛けてある外来種調査用定置網の網揚げ体験。胴長をお持ちの方は持参、または濡れても良い服装と靴(サンダル不可)。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。(有料) | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 5月6日 | 春の多摩川アユまつり 宿原堰横 | アユの遡上観察会・放流体験会 | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区二ヶ領宿原堰 | 南武線/小田急線 登戸駅下車5分 |
| 5月10日 | 多摩川外来ガメの捕獲救出作戦 | 多摩川ヘカメ捕獲トラップを仕掛けます。網入れ | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区二ヶ領宿原堰 | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 5月11日 | 多摩川外来ガメの捕獲救出作戦 | 多摩川ヘカメ捕獲トラップを仕掛けます。網揚げ | 9時～11時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区二ヶ領宿原堰 | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 5月17日 | 春の多摩川アユまつり | アユの遡上観察会 | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 参加無料 | 川崎市多摩区二ヶ領宿原堰 | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 5月18日 | 京王クリーンキャンペーン | クリーン作戦、アユの放流体験、ふれあい移動水族館 | 9時～13時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 自由 | 参加無料 | 多摩市多摩川河川敷一宮公園 | 京王線聖蹟桜ヶ丘 駅徒歩10分 |
| 5月24日 | おさかなポスト見学学習会 | 多摩川に仕掛けてある外来種調査用定置網の網揚げ体験。胴長をお持ちの方は持参、または濡れても良い服装と靴(サンダル不可)。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。(有料) | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 5月25日 | 多摩川ジュニアガイド多摩川自然観察会 | 多摩川で貝の化石掘をします。胴長をお持ちの方は持参、または濡れても良い服装と靴(サンダル不可)。胴長やライフジャケット、化石を掘るノミやハンマーが必要。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。(有料) | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 5月31日 | 多摩川外来ガメの捕獲救出作戦 | 多摩川ヘカメ捕獲トラップを仕掛けます。網入れ | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区二ヶ領宿原堰 | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 6月1日 | 多摩川外来ガメの捕獲救出作戦 | 多摩川ヘカメ捕獲トラップを仕掛けます。網揚げ | 9時～11時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区二ヶ領宿原堰 | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 6月7日 | おさかなポスト見学学習会 | おさかなポストの紙芝居。多摩川の生物多様性と外来種について学びます。おさかなポストの魚たちにエサやり体験ができます。 | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 6月8日 | 多摩川ジュニアガイド多摩川自然観察会 | 多摩川の生き物を観察します | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 6月14日 | おさかなポスト見学学習会 | おさかなポストの紙芝居。多摩川の生物多様性と外来種について学びます。おさかなポストの魚たちにエサやり体験ができます。 | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 6月15日 | 多摩川ジュニアガイド多摩川自然観察会 | 多摩川の生き物を観察します | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 6月21日 | おさかなポスト見学学習会 | 多摩川に仕掛けてある外来種調査用定置網の網揚げ体験。胴長をお持ちの方は持参、または濡れても良い服装と靴(サンダル不可)。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。(有料) | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 6月22日 | 多摩川ジュニアガイド多摩川自然観察会 | 多摩川の生き物を観察します | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 6月28日 | おさかなポスト見学学習会 | 多摩川に仕掛けてある外来種調査用定置網の網揚げ体験。胴長をお持ちの方は持参、または濡れても良い服装と靴(サンダル不可)。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。(有料) | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |
| 6月29日 | 多摩川ジュニアガイド多摩川自然観察会 | 多摩川の生き物を観察します | 14時～16時 | 全年齢小学生以下は保護者同伴 | 要 | 実費1人千円 | 川崎市多摩区稲田公園おさかなポスト 駐車場あり | 南武線/京王線 稲田堤駅下車5分 |

* ふれあい移動水族館・おさかなポストの会 代表 山崎充哲

メールアドレス RiverRanger777@gmail.com

TEL : 090 - 3209 - 1390

☆ かわさき水辺の楽校

3月23日(日) 10:00 ~ 東名下湧水で魚捕り

この時期にしか捕れないこ魚に挑戦!

連絡先: 佐々木梅吉 (090 - 8850 - 0065)

☆ とどろき水辺の楽校

4月29日(祝日) 開校式

ガサガサ・植物観察・自転車マナー教室

場所: とどろき水辺フィールド(現地へ直接集合)

昼食に野草天ぷら・わかめ(横浜みなとみらいで育てました)味噌汁などを提供

お弁当・着替えなど持参(参加費一人200円)

5月18日(日) 干潟観察会

場所: 大師河原干潟館(JR川崎駅集合) 昼食にシジミ味噌汁

お弁当持参・着替えなど(参加費一人200円)

6月22日(日) 草木染と河童の川流れ

場所: とどろき水辺フィールド(現地へ直接集合)

お弁当・着替えなど持参(参加費一人200円)

詳細はHPで <http://todoroki.org>

問い合わせは: 090 - 5814 - 9604 (鈴木)

財団事業年報特集

1 事業日誌 (2013年1月～2013年12月)

- | | |
|----------------|--|
| 1月15日 | 平成25年度研究助成の公募を締め切る(応募件数51件) |
| 1月29日 | 第24回常任理事会を午後2時から財団事務所で開催 - 平成25年度事業計画ならびに収支予算書について 他 |
| 2月25日 | 第25回常任理事会を午後3時30分から財団事務所で開催 - 第55回定時選考委員会開催について 他 |
| 3月1日 | 財団だより“多摩川”第137号(事業年報特集号)発行 - 巻頭言“慕わしい曖昧”(東京工業大学名誉教授 中村良夫) - 特別寄稿“古くて新しい観光交流ビジネスを創出” (美しい多摩川フォーラム事務局次長 及川清隆) |
| 3月5日 | 第55回定時選考委員会を午後2時より、財団事務所会議室で、 選考委員10名出席のもと開催 - 新規研究12件(学術研究4件、一般研究8件) - 継続研究9件(学術研究7件、一般研究2件)をそれぞれ採択 |
| 3月13日 | 第7回理事会による決議 - 平成25年度事業計画及び同収支計画の承認 他 |
| 3月21日 | 第6回評議員会による決議 - 平成25年度事業計画及び同収支計画の承認 他 |
| 3月27日 | 第26回常任理事会を午前11時から財団事務所で開催 - 2月分決算について |
| 4月24日 | 第27回常任理事会を午前11時から財団事務所で開催 - 第8回理事会、第7回評議員会議案について 他 |
| 5月16日 | 第8回理事会を午後2時より南平台東急本社にて開催 - 平成24年度事業報告、決算報告の承認について 他 |
| 5月31日 | 第7回評議員会を午後2時より南平台東急本社にて開催 - 平成24年度事業報告、決算報告の承認について 他 |
| 6月1日 | 財団だより“多摩川”第138号発行 - 巻頭言“身近な川の調査から学んだこと”(東京農工大学名誉教授 小倉紀雄) - 特別寄稿“雲取山と山小屋”(雲取山荘主人 新井新太郎) |
| 6月1日～ 7月31日 | 環境学習副読本「多摩川へいこう」を6,000部増刷し、 多摩川流域の小学校69校に6,214部贈呈 |
| 6月21日 | 第28回常任理事会を午後4時30分から財団事務所で開催 - 平成25年度研究助成金贈呈式について 他 |

- 7月10日 平成25年度助成金贈呈式を午前11時30分より、渋谷エクセルホテル東急で開催
- 学術研究者9名、一般研究者6名並びに来賓・評議員・理事・選考委員など約50名が出席
- 7月18日 第29回常任理事会を午前11時から財団事務所で開催
- 6月分決算について 他
- 8月31日 第5回社会貢献学術賞受付を締め切る
- 9月1日 財団だより“多摩川”第139号発行
- 巻頭言 “洪水と川のいきもの”(前橋工科大学名誉教授 土屋十圀)
- 特別寄稿 “自然を観ること、感じることから生物多様性を伝える”
(自然観察指導員東京連絡会代表 川上典子)
- 平成26年度研究助成の募集を開始
- 9月19日 第30回常任理事会を午前11時から財団事務所で開催
- 平成26年度研究助成の公募について 他
- 9月25日 第5回社会貢献学術賞選考委員会を午後2時30分より、財団事務所会議室で開催
- 大阪市立大学名誉教授・滋賀大学元学長 宮本憲一氏に決定
- 10月25日 第31回常任理事会を午前11時から財団事務所で開催
- 9月分決算について 他
- 11月15日 平成25年度第5回社会貢献学術賞贈呈式を午後2時より、セルリアンタワー東急ホテルで開催
- 受賞者(宮本憲一氏)並びに来賓・評議員・理事・選考委員など約46名が出席
- 11月27日 第32回常任理事会を午前11時から財団事務所で開催
- 10月分決算について 他
- 12月1日 財団だより“多摩川”第140号発行
- 巻頭言 “流域ガバナンスの財政学”
(大阪市立大学名誉教授 第5回とうきゅう環境財団社会貢献学術賞受賞 宮本憲一)
- 特別寄稿 “河川の好感度”(東京工業大学大学院教授 齋藤潮)
- 研究助成成果報告書発行(CD-ROM)
- 学術研究第42巻(4件収録)、一般研究第35巻(5件収録)を各々制作し、ホームページで公開
- 12月18日 第33回常任理事会を午前11時から財団事務所で開催
- 11月分決算について 他

2 研究助成事業

当財団では、平成25年度研究助成金贈呈式を、7月10日渋谷エクセルホテル東急で開催し、4月を開始月とする新規の助成研究12件に助成金を贈呈致しました。継続研究9件も承認されていますので、本年度は21件を助成していることとなります。ここに全助成研究をご紹介します。また、研究助成成果報告書（学術4件、一般5件）の概要を掲載します。

< 新規助成研究 >

学術研究

多摩川周辺に残る里山の植生の類型化に関する研究



鈴木 貢次郎（スズキ コウジロウ）

東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 教授

多摩川中流にあたる多摩地区には二次林を主とした里山が残っている。都市内に残された動植物の貴重な生息地でもある。人にとっては、保養や運動、遊戯、自然散策、学習の場として欠かすことのできない財産である。開発が始まるまでは、これらの里山は、全て連続していた。つまり生物間相互のつながりがあったのが、開発等によって分断された。多摩川もまた、これらの里山から水が集まるため、生物的なつながりがあったと思われる。換言すれば、周辺の里山は多摩川の環境に繋がる重要な場である。人と自然が共生する持続的な里山環境の育成と景観を目指すためには、植物相による環境形成作用を高める管理手法の構築や、緑地機能の発信を行うことが必要である。本申請では、多摩川流域の里山を網羅的に調査し、構成する植物としての高木や林床植物によって類型化する。その結果から、人為的な開発や管理等の影響との関係について考察するものである。

多摩川流域の都市における保全上重要な植物群落の評価



吉川 正人（ヨシカワ マサト）

東京農工大学 大学院 農学府 助教

平成20年に施行された生物多様性基本法によって、自治体レベルでの生物多様性地域戦略の策定が求められているが、具体的な戦略を構築するためには、地域ごとの詳細な生物の分布情報が必要である。本研究では、東京都府中市を例に、土地利用の高度化が進んだ多摩川流域の都市部において、地域の生物

多様性の観点から保全すべき植物群落を明らかにし、その分布情報を地図化することを目的とする。申請者らはこれまでに、府中市内で植物群落の種組成を記録した調査資料を2000件以上蓄積している。また、2007年には府中市の1万分の1現存植生図の作成も行っている。本研究ではこれらの既存データを活用し、植生調査資料を用いた植物群落の識別をおこない、その種組成から保全上の重要性を判定して、保全すべき植物群落のリストを作成するとともに、植物群落の分布を植生図にプロットし、植物相 - 植物群落 - 植生タイプの関係を統合した「植物多様性情報地図」を作成する。さらに、これらの成果を行政機関や市民団体等が利用可能なかたちで刊行する。

多摩川水域における放射性同位体分布状況調査およびその地形との関連探究



井上 浩義（イノウエ ヒロヨシ）

慶應義塾大学 医学部 化学教室 教授

本申請課題では、平成25年度および平成26年度の多摩川流域における天然放射性同位元素および人工放射性同位元素の蓄積を明確にし、その多摩川の地形・地勢との関係を明らかにすることによって、多摩川流域における放射性同位元素堆積基礎データとすることを目的とする。申請者グループは、市民の市民による環境保全行動の醸成のためには身近な環境を歴史的・感覚的側面からの理解と科学的側面からの理解を同時に、かつ階層的に進める必要があると考えている。本研究課題を進展させることは本目的の科学的側面からの理解促進の一助になると考える。

本申請課題は、放射性同位元素という社会性の高い物質を対象とするが、本申請課題では、自然科学的側面に限った発表に心掛ける。一方で、市民向け成果報告・啓発講演会では、放射性同位元素の人体への影響を含めた確固たるプログラムを提供する予定である。

多孔性セラミックスと活性炭を用いた非電化フィルターによる多摩川河川水の減菌と飲料化の研究



今田 千秋 (イマダ チアキ)

東京海洋大学 大学院 教授

震災等の災害による上水供給に対する被害は、近年大変問題になっており、非常時における水源として河川という身近な水源を最大限利用することが提言されている(島谷等：兵庫県南部地震時における水利用実態と河川水利用の可能性に関する研究、土木学会論文集、No.580/ -5、1-8、1997.11)。首都圏においても災害時の上水供給において同様な課題が指摘されている。

多摩川河川水を非常事態下で飲料水として使用することが検討されてきたが、大腸菌群および一般細菌は、上流から河口付近まで水道水基準を満たさず、下流に行くに従い、両項目ともに数値が顕著に増加することが報告されている(小堀洋美：多摩川の水質環境の変化に対応した新たな微生物・化学指標による現状把握と指標評価、とうきゅう環境財団学術研究成果リスト、2005)。

本研究では多孔性セラミックスと粒状活性炭とを混合した濾材(特開2005-81325、出願人鈴木誠治、発明者鈴木誠治他1名)を用い多摩川河川水を減菌し、水道水基準レベルを達成するかどうか、また季節変化等を調査する。このフィルターの有用性は「非電化製品」という点である。首都直下型地震を含め、今後日本で大型地震災害が想定されている中、電力を必要としない方法で飲料水を造水する手段の獲得は喫緊の課題である。

一般研究

多摩川における日本在来河原植物5種の分布調査



柴田 隆行 (シバタ タカユキ)

多摩川の自然を守る会 代表

多摩川の河原植物はここ数十年激減の一途をたどっている。原因は多岐にわたるが、だいたいわかっている。しかし、この単純な事実を市民レベルで総合的に明らかにした資料は寡聞にして知らない。河川水辺の国勢調査は、全国の河川を扱って

り、ある種の植物がその河川に存在するか否かはわかるが、具体的にどこにどのように分布しているかはいっさい公開されていないので、保護活動には役立たない。研究者が行っている調査・研究の成果も一般には閲覧が困難である。

そこで、まずは2年間限定で、河原植物の分布状況を組織的に一斉に調査することにした。市民が行う調査は学問的厳密さに欠ける点があるが、市民が調査に参加することの啓蒙効果は大きい。多摩川の自然を守る会は結成以来42年の活動実績があり、今回の調査結果を過去の情報と対比し、得られた知見を多摩川の河川環境の改善ないし保全に有効に役立たせることができると見込まれる。

市民や子ども達による多摩川流域一斉水質調査についての新たな展開—電気伝導率、硝酸態窒素、リン酸態リンの測定—



渡邊 勇 (ワタナベ イサミ)

美しい多摩川フォーラム 環境清流部会長

美しい多摩川フォーラムは2008年6月より2013年6月までの5年間、子どもたちや多摩川流域の人々と共に多摩川の上流から下流までの75カ所(当初は55カ所)における気温、水温、化学的酸素要求量(COD)を測定し、その結果を多摩川流域水質マップにして、多摩川流域に關係する団体に配付してきた。

5年間における多摩川の上流から下流までのCOD(バックテスト)の平均値は、0~3mg/L未滿の占める割合が56.7%、3~6mg/L未滿が31.3%、6mg/L以上が11.5%で、5年間におけるCOD値は、横ばい傾向にある。そこで2013年度からは有機物による水質汚染の指標であるCODに、無機イオンの総量の指標である電気伝導率と生活排水に多く含まれる硝酸態窒素、リン酸態リンの定量を追加し、「身近な水環境の全国一斉調査」と共に連携して、多摩川の水質状況を把握するためのシステムを構築することを研究の目的とする。特に、窒素、リンは東京湾の赤潮、青潮に關係する重要な水質項目である。以上の水質調査にあたっては、正確なデータを出すために基礎知識が重要である。例えば、河川水の採水方法、現地における気温、水温、においなどの測定、電気伝導率、硝酸態窒素、リン酸態リンなどの測定法の知識やスキルなどが必要になる。また測定結果の意味を理解することも重要である。以上のようなことから水質調査について、小中学生、市民などに分かりやすいイラスト入りのテキスト(仮称「河川水の簡易水質調査法」)

を作成する。

このような活動を行うことにより、流域の子どもたち、市民は多摩川の水質に関心を持ち、地域に活きた親しめる川の復活を目指すことが出来る。

高尾山におけるムササビの生態研究と普及啓発活動への利用



井上 太志 (イノウエ フトシ)

自然観察活動チーム Wild Lives Watchers 代表

本調査研究では、高尾山薬王院におけるムササビの活動利用状況の実態を把握するとともに、そこで得られた生態情報を元に、滑空性哺乳類ムササビの保全に関する普及啓発として、年2回の観察会開催を主な目的とする。

自然観察活動チーム Wild Lives Watchers (以降 WLW と略記する) では、2010年より高尾山薬王院周辺にてムササビを対象とした観察会などを実施してきた。観察会においては、個体の出巢状況、利用エリア、利用巣穴などの生態情報は重要種であるムササビの保全を啓発するために重要なものであり、特に調査に関してはこれらの情報を取得することを目的としている。調査で得られた生態情報について、観察会の資料や解説内容として利用することを視野に入れている。

対象とするムササビは、東京都レッドデータブックにおいて絶滅危惧Ⅰ類に指定されており、東北や関東、近畿、九州などの複数県でも重要種として扱われている。近年のマスメディアでも広く情報が知れ渡っている「高尾山のムササビ」は現在出巢時間の遅延などの生態的影響が発生している。その背景には、観察者の観察マナー違反や周辺の人間活動(ピアガーデンの夜間点灯など)、他にも連続したストロボ撮影などが大きく影響していると思われる。

これらのことから、WLW では、一般的に公表されている観察マナーに加え、個体への影響を最小限に抑えるための配慮(点灯者の限定、照射時間の短縮など、個体の反応に合わせた観察)をした上で観察会を実施、またはプログラム内で指導していくことで、一般の方々の保全意識を高めていくことに重きを置いている。

武蔵野台地の風土や課題などを読み解くための散策コースづくりの調査・研究と、それにそった散策会(歴史散歩)の実施



福田 恵一 (フクダ ケイイチ)

小平市立小平第三中学校 社会科教諭

多摩川周辺では、急激な都市開発が行われ、人口が急増した。その結果、多摩川そのものをはじめ、かつてはあたりまえであった田んぼや用水路などの水辺の景色、またその周辺の畑や雑木林(薪炭林)などが大幅に減少し、それにかかわる生業も減少、変化してきている。

一方で、環境保全の観点から、用水、田畑、野原、雑木林など、人間の手を加えた二次的な自然の機能が「里山」として認められるようにもなっている。

そうした中で、残された用水、田畑、野原、雑木林などを見ながら地域を開発し生活してきた先人の知恵や歴史(地域の風土性)を見直したり、新しい水辺の活用法を考えることのできる散策コースをつくるための調査、研究を行う。

その上で、そのコース散策活動や学習講座を、市民講座の「歴史散歩」などとして行い、市民の目線から、この地域の地形や気候などの自然条件にあつた暮らしや生活の知恵、持続可能で環境にも負荷をかけない開発や産業(農林業、商工業など)の知恵などを見直したい。

こうした市民講座は、これまでも行ってきたが、助成が決定した今年度は、十分にコースの下見、調査を行ったり、専門家、関係者を講師としてお願いすることを考えている。7月には、水源の森を林業家の視点も入れての散策を予定している。

多摩川流域におけるカメ相の変遷



佐藤 方博 (サトウ マサヒロ)

認定 NPO 法人 生態工房 事務局長

我が国の本土部には、古くからニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポンの3種の淡水性カメ類が見られる。これらのカメは各地で人為的な放流が行われてきた結果、本来の自然分布域が判然としなくなっている。

ニホンイシガメは、生息数が減少していることから2006年

に環境省レッドリストに掲載された。これを期に、自然分布の地理的範囲が注目されるようになったが、本種の詳細な分布については研究が少なく、太平洋側の北限は関東地方とも言われているが調査されていない。また近年は北米原産のアカミミガメが増加しており、在来カメ類との競合が懸念されている。在来種の自然分布が明らかにされていないうちに、地域のカメ相が変貌しつつある。

本研究では、多摩川流域における淡水性カメ類の分布を広域的かつ詳細に調査し、

- (1) 文献記録の精査による、在来種・外来種の分布域の変遷
- (2) 現地調査による、希少種ニホンシガメの自然分布地の有無について明らかにする。

多摩川流域（世田谷区玉川地域）における「食とアート」を通じた子どもの都市農業学習の支援活動



田中 翔（タナカ ショウ）

早稲田大学 社会科学部

卯月ゼミナール S.A.I.F
（世田谷アートインファーム研究会）

私たちは、多摩川流域に残された豊かな自然環境をベースに、子ども達の都市農業学習を通じて、多世代間の交流を深め、地域のコミュニティを活性化させることを目的に研究をしている。

多摩川流域には多くの住宅街が存在している。その住宅街の中にも大きな農園や畑が存在する。世田谷地区の良いところは、都市と農地が共存しているところにあると考える。都内でそのような地域は他には見当たらないとても良い環境である。しかし地域の住民の方は、身の回りの緑に接する機会があるだろうか。家の周辺の農園や畑でどのような食べ物が取れるのか知っているだろうか。自ら身の周りの緑と接することを意識しなければ、わからないことは多いはずである。そこで私たちは、世田谷の緑と食を地域の人々に知ってもらい、地域のコミュニティを活性化しようと考えている。具体的には3つの活動を柱とし実施していく。一つ目は区民農園における収穫祭を通じた食の交流と区民農園コミュニティの確立、二つ目は芸術家と子どもによる農産物直売所デザインワークショップと周辺地域への農地周知促進、三つ目は直売所ツアーと食材加工教室を通じた子どもの地域農業学習である。

以上の活動を通し多摩川流域の世田谷地区の農地に「食」「子ども」「アート」という要素を加えることで、私たちは世田谷

の豊かな自然環境の中に、新たな地域コミュニティの形成と農業と子どもの関係性の創出に貢献していきたい。

多摩川及び福生地区の外来生物分布マップの作成



島田 高廣（シマダ タカヒロ）

特定非営利活動法人 自然環境アカデミー 代表理事

特定外来生物の駆除活動が各地で盛んに行われているが、外来生物が既に広域に侵入し定着した場合は、その根絶は難しく、また駆除費用も莫大な予算となる。更に、一度定着してしまった外来生物に対して、駆除作業を実施しても十分に効果が上がらない事例も多数見受けられる。したがって、外来生物の拡大を防止するためには、外来生物が侵入して拡大・定着する前の段階で防除・駆除することがきわめて重要である。そのためには、これら外来生物の情報を広く収集することが必要不可欠である。

本研究は、本法人が活動の中心としている福生市内及びその地先の河川区域（昭島・福生・羽村区間）周辺において、これら外来生物の分布状況を記録し、情報を収集・蓄積し、フリーGISアプリケーションを用いて外来生物分布マップを作製し、福生市及びその周辺の外来生物の分布状況を把握することを目的として実施する。

多摩川・里川・秋川流域の低山丘陵地におけるニホンシガメの分布拡大についての研究



御手洗 望（ミタライ ノゾム）

青梅自然誌研究グループ

ニホンシガメは多摩川流域に生息する中型草食獣で、近年個体数の増加が報告されている。それに伴い多摩川流域の山地では、農林業被害・林床植生の消失・土壌の流亡などの影響が顕在化するようになった。そのため、東京都では平成17年からシカ保護管理計画を策定し、モニタリング調査や各種の対策を実施してきた。

ところがここ数年、従来知られてきた奥多摩町・青梅市・檜原村などの山地帯以外からもシカの生息や農林業被害に関する

情報が出始めており、低山地から丘陵地にかけて分布拡大の兆候が見られはじめた。しかしながら、東京都で行われているニホンジカに関する生息状況調査は山地に限定しているために、分布拡大の状況を十分に把握できているとは言い難い状況である。

本研究では、これまで行われている東京都のニホンジカに関する生息状況を補完し、分布拡大の状況を把握するために、多摩川・秋川流域の低山地・丘陵地（青梅市・あきる野市・日の出町および周辺自治体）を対象にして、分布状況・農林業被害状況を把握することを目的として実施する。これらの調査によって、ニホンジカの分布拡大への対策など鳥獣保護管理に寄与することを目的とする。

< 継続助成研究 >

学術研究

多摩川流域における都市部から山間部へかけての生物間相互作用の変異と環境教材開発：植物-送粉者系をもちいて



堂園 いくみ（ドウヅノ イクミ）

東京学芸大学教育学部
自然科学系広域自然科学講座環境科学分野 准教授

都市開発は、生物の生息環境を大きく変化させてしまうため、都市部では山間部に比較して生物多様性が減少していることが良く知られている。しかし、都市部においても、河川敷、丘陵地の雑木林、社寺林や公園などの断片的に分布している緑地が生物多様性の維持に貢献していると考えられる。本研究では、植物に訪花する送粉者（花粉運搬者）の多様性とその植物との相互作用に注目し、多摩川流域の都市部（都内）から山間部（水源林域）にかけて、複数地点の緑地を調査し、共通してみられる複数の植物種に注目し、その送粉者の多様性や種子繁殖を比較して都市部においてそれらを減少させる環境要因は何かを明らかにすることを目的とする。さらに、これらの調査の結果を用いて、身近な植物種・送粉者系を用いた環境教育の教材開発を試みる。

多摩川流域における放射性物質による河川水と土壌などの汚染状況調査と放射線・水環境を学ぶ市民教室の構築



吉田 政高（ヨシダ マサタカ）

NPO 千葉健康づくり研究ネットワーク 理事

昔、多摩川の河原で遊んでいた頃は、川に入ると水がきれい、空気もおいしかった。その東京の水源に異変が起きた。利根川・荒川水系の浄水場で、飲料水中に含まれる放射性物質の量が乳児の規制値を超えて検出された。東日本大震災に伴う津波によって原子力発電所で事故が発生し、放射性物質による汚染という危機が発生しているのだ。また、水道の断水は阪神・淡路大震災では70日間に及んだ。これは他人事ではない。なぜなら足元の首都圏では東京湾北部地震がいつ起きても不思議ではないと想定されているからだ。このような状況の中で、多摩川流域に限らず多数の人々が、地震などの大規模災害や放射性物質の汚染による健康への影響に対して大きな不安を抱いている。

そこで、まず多摩川流域の大気、河川水および土壌などの放射性物質の測定を行い、汚染状況の適切な把握をする。また災害時における水道の断水やそれによる社会への影響を、過去の事例を基にヒトの健康維持という面から分析する。そして、これらの研究成果をもとに、多摩川流域の人々をはじめ、広く一般の市民に対して、水環境、放射性物質の汚染や安全・安心な飲料水の確保策について、体系的に共に学べる場を設けていく。さらに、医療被曝や中国、ヨーロッパ世界などの被曝状況も学び、広い視野を持つ市民の育成にも努める。

多摩川流域の水生昆虫類の遺伝的構造



倉西 良一（クラニシ リョウイチ）

千葉県立中央博物館 主任上席研究員

多くの生物で、種を構成する個々の個体群間や個体群内にも遺伝子レベルでは大きな変異が含まれており、同種という枠でくくられるような単純なものではないことが分かってきた。自然下では、このような内部に大きな遺伝的変異を含む種が、互いに関係しあって群集を構成している。生物群集が健全な状態

で生態系の中で機能するためには、集団の遺伝的構造が一定レベルの多様性を持つことが重要で、このことから遺伝的変異を客観的に評価することが望まれている。

本研究は河川生態系の中の物質循環に大きな役割を果たす水生昆虫類の造網性のトビケラ類に着目しその遺伝子構造を解明、そして遺伝子構造の変異性から多摩川水系の生物多様性をとらえようとするものである。本研究で明らかにしたいのは、多摩川水系の上流から下流にかけてのさまざまな地点の造網性トビケラの遺伝子構造である。それらの変異パターンと地点間の類似性、個体群間の遺伝子のネットワークの強弱、特に多摩川水系内の上流から下流に至る流程内での遺伝的な変異がどのような要因によるものか解明したい。

多摩川上流域の山地斜面における深層崩壊に関する地形・地質学的研究



刈谷 愛彦 (カリヤ ヨシヒコ)

専修大学文学部環境地理学研究室 准教授

近年、急峻な山地で生じる深層崩壊（大規模崩壊）が注目されている。これは長期にわたり岩盤が重力作用で変形し、地震動や豪雨をひきがねに突発的に崩壊する現象である。深層崩壊は移動土砂量が多いため、ひとたび発生すると発生域の周辺や流域の広い範囲に深刻な土砂災害をもたらされる。岩盤の重力変形が進むと特徴的な地形や地質構造が形成されることがある。尾根沿いの線状凹地や低い崖の列、谷壁斜面の膨らみだしがその好例である。また岩盤変形は谷沿いの地層の露出面でも観察される。したがって空中写真判読や地形図の読図、現地測量、地質踏査等を通じてこれらの現象を把握できれば、深層崩壊に結びつく可能性のある岩盤の重力変形を察知できる。また線状凹地には火山灰や木片が堆積し、それらは岩盤変形や地形の発達を論じる際に時間軸を挿入するための鍵となる。

堆積岩地域では岩盤の重力変形が生じやすいことがすでに判明しており、私たちが六ツ石山や赤指山、丹波天平をはじめ各所で線状凹地や谷壁斜面の膨らみだしを確認してきた。また小菅村玉川や日原構沢では中規模の深層崩壊が実際に生じている。しかし多摩川上流域では深層崩壊や岩盤の重力変形に関するまとまった研究はなかった。本研究では地形学・地質学的手法による室内・野外解析を通じて、多摩川上流域における岩盤の重力変形域を明らかにする。また掘削調査や地質調査も行い、編

年材料の獲得に挑む。このようにして得られた種々のデータを基礎として、多摩川上流域における深層崩壊の発生史を解明し、発生予測を論じたいと考えている。

首都圏の酸性雨の広域・長期観測データの解析に基づく多摩川流域への環境影響評価

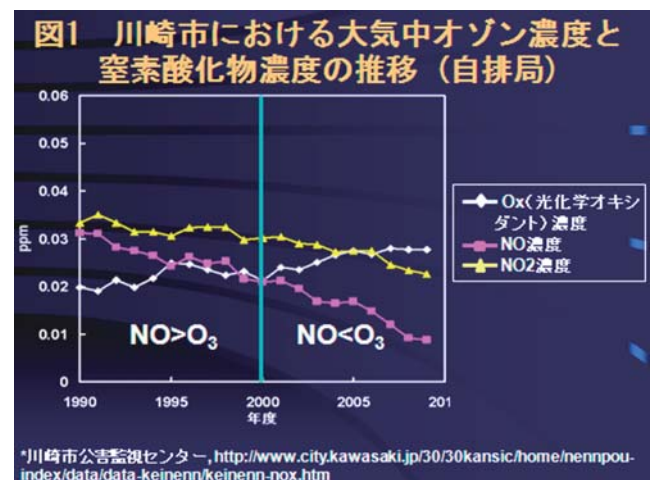


田中 茂 (タナカ シゲル)

酸性雨問題研究会 代表世話人

(慶應義塾大学理工学部 教授)

酸性雨の現象は、硫黄酸化物や窒素酸化物といった大気汚染物質の降水への取り込みによって生ずるものであり、その実態及び生成機構を解明するためには、広域において継続的に降水を監視する体制の確立が不可欠となる。1993年に、日本化学会の研究会として、酸性雨研究分野の10名の研究者からなる世話人によって酸性雨問題研究会が設立された。酸性雨問題研究会の世話人である田中（慶應義塾大学）、土器屋（気象大学校）、原（東京農工大学）を中心に、1990年から首都圏に位置する学校法人慶應義塾の施設を主として利用し、これまでに、東京、神奈川、千葉、埼玉、栃木、山梨の1都5県11地点に降水採取地点を設け、年間を通じて降水を採取し、pHと化学成分の測定を行い、首都圏における降水中の化学成分の広域モニタリングシステムとしてのネットワーク（Tokyo Metropolitan Acid Rain Study、TOMARS）を構築し、首都圏の酸性雨の広域・長期的観測を行ってきた。



日本における酸性雨の研究は、1980年代に活発に研究が進められた。その後、首都圏の大気汚染の状況が横ばいの状況となり、1990年代には大きな変動がないままに推移してきた。しかしながら、2001年度に東京都と国により、バス、トラッ

ク等の大型車両のディーゼル排気ガス規制が開始された。数十年間に渡り、首都圏の窒素酸化物（NO_x）、浮遊粒子状物質（SPM）の大気濃度は減少しなかったが、2001年度の画期的なディーゼル排気ガス規制の開始により、2010年度は首都圏の大気中窒素酸化物（NO_x）濃度を40～50%近く削減することに成功した（図1参照）。従って、2000年前半の首都圏における大気汚染の改善は、首都圏及び多摩川流域における酸性雨の動態を大きく変化させていることが予想できる。

本研究は、1990年～2010年の20年間に及び首都圏での広域・長期観測データの解析を基にして多摩川流域への環境影響評価を行い、その動態を明らかにする。

森林の分断化に伴う生物種の絶滅リスク評価および優先保護区域の抽出：多摩丘陵における複数の種群・スケールの生物多様性を対象とした複合研究



小池 伸介（コイケ シンスケ）

東京農工大学農学部
森林生物保全学研究室 講師

近年、生息地の分断化によって衰退しやすい生物種を予測するためのアプローチとして、生活史特性を指標として分断化に対する種ごとの絶滅リスクを予測する、という方法がある。分断化に対する種毎の影響や、分断化に敏感な種を予測することが可能となれば、それらの種を中心としたより効果的な保全策に結び付くためである。また、それと併せて、分断化に敏感な種が数多く集中して存在するエリア、すなわち保全優先地域を抽出することも効果的な保全策を提言する上で必要不可欠である。

本研究では、東京都多摩地域において、様々な特徴を有した複数の動物種群の生物種を対象に、種多様性、種間相互作用多様性、遺伝的多様性といった複数の生物多様性スケールを対象に、1) 分断化に対する絶滅リスクが高い種の予測手法を確立、2) 絶滅リスクが高い種が数多く集中している保全優先地域の抽出を試みる。そして最終的には、上記2つの課題を基に、東京都多摩地域において、保全上緊急性が高いエリアの図示化と、それらを踏まえた、効果的な多摩地域における生物多様性の保全計画を提言する。

多摩川生息魚類における魚病細菌の分布調査



間野 伸宏（マノ ノブヒロ）

日本大学生物資源科学部 専任講師

近年、我が国の自然河川において、欧米諸国でのみ報告されていた複数のウイルス病や細菌感染症による魚病の発生が報告されるようになり、今後より深刻化していく可能性が指摘されている。

そこで本申請研究では、これまで被害が報告されている冷水病やエドワジエラ・イクタルリ感染症の原因細菌を中心に、多摩川に生息している一般生息魚種、絶滅危惧種、そして国外移入種（野生化觀賞魚を含む）を対象とした魚病細菌調査を行い、保菌状況や分離細菌の性状（病原性を含む）から、各魚病細菌の罹病（保菌）状況を調べるとともに、特に希少種の生息への影響を明らかにする事を目的とする。

一般研究

多摩川を溯った江戸・東京の民俗「地口行灯と祭り」



岡崎 学（オカザキ サトル）

羽村郷土研究会

江戸・東京のこたばの文化のうち、遊び心を文字にした地口行灯が神社の祭りとともに都心から郊外へと伝えられたルートを多摩川流域に捜し求めるものである。

江戸・東京のこたばの文化が地口行灯という媒体を介して多摩川を溯り、秋川や平井川等の支流を終点として現在も細々と残っている点に着目してみた。そこで、多摩川流域に残る民俗行事の一環として祭りを彩る地口行灯を調査・研究し、後世に残すことを目的とするものである。

多摩川流域の里山にトウキョウサンショウウオの産卵地を復活させるための調査・研究



飛弾 紀子 (ヒダ ノリコ)

青梅カエル池プロジェクト

青梅の里山でもカエルの合唱はめったに聞かれなくなりました。耕作放棄された谷津田跡が干上がり、いよいよ里山の水辺環境がなくなってきたからです。田んぼの豊かな水辺環境に依存してきた生物の多くが生き残るのが難しくなりつつあります。

私たちは6年前から谷津田跡にいくつもの池を掘り続けてきました。山から染み出す水が溜まるように工夫して池を作っていくと、そこには様々な生き物が戻ってきました。春にはついにかエルの合唱が聞こえるようになりました。もちろんトウキョウサンショウウオもカエルも水辺だけで暮らすわけではなく、山の環境がセットで残っていかなくては生きていけません。産卵の場が確保されたことで個体数も増え、カエルやネズミを捕食するフクロウが池を訪れたりしているようです。

しかし順調に増えるかと思われたトウキョウサンショウウオの卵嚢が減っていくことに気が付きました。アライグマの足跡も見つかったので、古スダレで簡単なシェルターを設置してみました。シェルターの下での卵嚢数はシェルターのないところより確実に多いので、一定の効果があることが分かりました。

里山動物はほとんどが夜行性です。夜の池の周りで、どんなことが起こっているか、なかなか分かりません。池にやってくる動物をセンサーでとらえて、映像あるいは写真を撮影する自動カメラを設置して、生態調査をし、在来の里山動物たちと、外来種であるアライグマの行動を知り、里山の自然環境の復元に役立てていきます。

アライグマの及ぼす影響はたいへん大きいと言われますが、多摩川流域にその数は多いにもかかわらず生態はほとんど知られていません。アライグマからトウキョウサンショウウオの産卵場を守るためのシェルターも改良をしていきたいと思います。自然の中ですから素材は極力自然のものを使い、朽ちていくのを毎年少しずつ直しながら使えるようなものにしていきたいと思います。

一研究助成成果報告書収録の研究一

学術研究第 42 巻 4 件および一般研究第 35 巻 5 件の研究助成成果報告書が完成し、

財団ホームページで公開するとともに報告書全文をダウンロード出来る様になりました。

課題と研究者名及び概要をご紹介します。

<http://www.tokyuenv.or.jp/>

学術研究

NO.303 多摩川流域環境保全データベース検証用 Web GIS 構築に関する調査研究



宮林 茂幸

多摩川源流研究所運営委員長

1) 念願の新しい多摩川源流(流域)情報マップが、平成 25 年 9 月 1 日に公開された。この事業は、平成 16 年度の国土施策創発調査(国交省・環境省・林野庁)の源流再生・流域単位の国土の保全と管理に関する調査で打ち出された源流可視化プロジェクトが大元になっている。

2) 内閣府の「地方の元気再生事業」(平成 20 ~ 21 年度実施)において小菅村と多摩川源流研究所が源流からの情報発信活動として多摩川流域を網羅した 1 / 25000 基盤地図データベースシステムを作りこの事業を開始した。平成 24 年 1 月に Web GIS を一旦公開する事が出来たが、アクセスできないという致命的な欠陥が発覚し、システムの再構築に取りかかり、今回の公開に至ったものである。

3) 今回の多摩川源流(流域)情報マップは、トップページに事業の目的が簡潔に示されており、さらにサイトの内容が 1. 多摩川源流・流域情報、2. 小菅村の地名とその由来、3. とうきゅう環境財団研究成果、4. 多摩川の植物・お魚図鑑、5. 多摩川流域水質情報、6. 水辺の楽校活動情報など、源流を中心に流域全体で取り組まれている環境保全活動の内容とそのデータを 6 分野に集約して明示し、自分の知りたい情報を入手できるシステムになっている。

アドレスは次のとおり

<http://tamagawagenryu.net/tamamap/index.html>

NO.304 病原性菌を含むスーパー多剤耐性菌の多摩川における存在調査



浦野 直人 (ウラノ ナオト)

東京海洋大学・海洋科学部・海洋環境学科 教授

近年、多剤耐性を獲得した病原菌が世界中で広がり、日本においてもヒトへの健康被害が報告されている。とりわけ、ほとんどの抗生物質が効力を示さないニューデリーメタロ - ラクタマーゼ (NDM-1) 生産菌の出現は国際的な懸念を引き起こしている。そこで、多摩川流域の安全性を確保するために、上流・中流・下流域における NDM-1 生産菌を中心とする多剤耐性菌の生息調査を行った。

多摩川各流域の表層水で、バシトラシン、アンピシリン、スルファメトキサゾール耐性菌の耐性菌が多く検出された。上流では 5-8 剤の多剤耐性菌が多く、中流と下流では 3 剤の耐性菌、下流では 2 剤耐性菌が多く出現した。8 剤耐性の細菌は Bacteroidetes 門、2-3 剤耐性の細菌は Firmicutes 門が大半を占めた。

合計 42 株のメタロ - ラクタマーゼ (MBL) 生産菌が単離された。42 株には、日和見菌などの病原菌が存在し、IPM-1 型遺伝子を持つ MBL 生産菌であることがわかった。従って、ヒトに感染して抵抗力が弱まって発病した際に、抗生物質が効かない可能性も推定される。今回の調査では NDM-1 生産菌の存在は確認されなかったが、継続調査が必要と考える。

NO.305 多摩川の水温変化の実態と形成要因に関する研究



木内 豪 (キノウチ ツヨシ)

東京工業大学大学院総合理工学研究科 准教授

本研究では、現地観測結果と既存データに基づきながら多摩川の水温変化の実態と形成要因を分析した。多摩川日野橋地点とその下流域では、冬期の明瞭な高温化が確認されるとともに、1990 年から 2010 年までの間、水温が経年的に上昇傾向にあることがわかった。また、夏期には小作取水堰等での取水によって本川の流量が減少するために拝島橋に至る間に水温が急激に上昇するものの、それより下流では比較的安定していた。また、

長期間の水温変化トレンドは認められなかった。上流域における多摩川の水温は、ダムからの放流や取水の影響を強く受けているが、下流に行くにしたがい、支川からの流入や下水処理水の影響を強く受けるようになる。下水処理水の放流は、中下流域における冬期の高温化の主たる要因である一方で、夏期には多摩川の水量維持ばかりでなく、高温化抑制にも寄与していることが示された。また、河川水と地下水との交換も水温形成要因となっていることが示された。

NO.306 多摩川における絶滅危惧Ⅰ類アサクサノリの生育特性、繁殖特性および保全対策について



嶋田 智 (シマダ サトシ)

お茶の水女子大学大学院
人間文化創成 科学研究科 准教

紅藻アサクサノリは日本で絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。本種は養殖種スサビノリと形態学的にも生理学的にも類似している。本研究では、まずアサクサノリと思われる 17 都県 46 地域 165 個体から rbcL 遺伝子および ITS1 領域の塩基配列データおよび ARP4 遺伝子による PCR-RFLP によりアサクサノリ、スサビノリおよびアサクサノリ・スサビノリ交雑体を確認した。その結果、アサクサノリの 38 生育場所（新規 8 地域）を明らかにした。次に、3 つのマイクロサテライト（SSRs）マーカー（Pye13、Pye41、Pye53）について遺伝子型を決定した。STRUCTURE 解析では 4 クラスター、POPULATION 解析では 3 つのクレードが検出された。クラスター 1 は G1 と同じく長崎県および熊本県からなり、他の地域のものとかけ離れた。クラスター 2 は G2 と同じく関東から東北地域にみられた。クラスター 3、4 は G3 と同じであったが、地域的なまとまりはみられなかった。

一般研究

NO.205 多摩川水系の小学校教師を対象とした多摩川環境学習の実態調査および問題解決に向けた学習支援とその教材開発



竹本 久志 (タケモト ヒサシ)

NPO 多摩川塾 理事

当法人は、大都市河川ながら比較的豊かな自然度を残す多摩川を流域児童の環境教育の場として活用する「多摩川教育河川構想」の推進を目的に、小学校教師を対象とした自然環境教育指導者育成講座を開催している。

前年度は教師を対象とした自然体験講座を開くと同時に、東京都と神奈川県 の 63 小学校、131 名の教員から多摩川環境学習のアンケートをとり、実施困難校の問題解決に向けた支援プログラム（A4 カラー・28 頁）500 部を作成した。また教師向け学習教材として多摩川版「昆虫カード」（1200 セット）を制作配布した。

今年度も流域各地で体験教室や出前講座を開催し（資料別添）事業数 31 回、参加者のべ約 3529 名（児童・保護者含む）を数えた。これは昨年度の事業数・参加者数（24 回・約 3098）を大きく上回るもので、充実した 1 年となった。

さらに教師向け学習教材として、1 年間取り貯めたデータを元に「干潟の生きもの図鑑」を現在制作中。多摩川先生育成のツールとして活用したい。

NO.206 玉川上水中流部におけるアライグマと中型哺乳類の生息状況



片岡 友美 (カタオカ トモミ)

認定 NPO 法人 生態工房

玉川上水中流部（全長 18km）において外来生物アライグマ（*Procyon lotor*）と中型哺乳類の生息状況を明らかにするため、2012 年 2 月から 2013 年 3 月において水路内でアライグマ等の痕跡探索を行い、さらにアライグマに特化した餌トラップの設置と自動撮影装置による生息確認調査を行った。また、東京都の島嶼を除く全ての市区町村にアライグマ、ホンダタヌキ（*Nyctereutes procyonoides*）、ハクビシン（*Paguma larvata*）に

関する捕獲や被害情報の聞き取りを行った。さらに、市民からも目撃情報を収集し、東京都内におけるアライグマ、タヌキ、ハクビシンの分布を明らかにした。

自動撮影装置によって玉川上水中流部の水路内3地点でアライグマが撮影され、水路を利用していることが明らかになった。また、アライグマが撮影された地点の周辺では足跡が確認されたり、餌トラップの誘引餌の消失率が高かった。このため、現状においてアライグマは上水流域の限られた場所に生息している可能性があると考えられた。このほか、痕跡確認とセンサーカメラを用いた調査ではホンダタヌキ、ハクビシンが多数確認され、アライグマと同所的に生息している場所もあった。自治体への聞き取りと文献資料を集計した結果、35市区町村でアライグマの生息情報または目撃情報があり、これまで記載のなかった小平市でも生息が確認された。本調査によって玉川上水中流部周辺では未だアライグマの生息密度は低いと予想されたが、今後、分布拡大する可能性は高く、被害が発生する前に早期の防除対策が肝要であることが示唆された。

NO.207 多摩川流域における絶滅危惧種サシバの生態に関する調査研究



山口 孝 (ヤマグチ タカシ)

多摩クマタカ生態調査チーム

2011年から2012年にかけて、東京都内の2箇所においてサシバの繁殖行動を観察した。サシバの繁殖環境に関する先行研究とは異なり、2箇所とも水田がない山地帯で、生息地の80%以上が樹林に被われていた。いずれの営巣木でも600m以内には河川があった。営巣木の樹種はモミとスギで、営巣木の胸高直径は周辺の樹木より大きかった。

NO.208 第4回多摩川流域市民学会の開催



長谷川 博之 (ハセガワ ヒロユキ)

昭島環境フォーラム

当学会は、これまで、中流(2006年度・福生)、下流(2008年度・川崎)、上流(2010年度・奥多摩)と、各流域での開催

を積み重ねてきた。第4回目となる今回は、テーマを中心とした開催趣旨に切り替え、「生きものおよび生きもの環境から、望ましい河川環境を考える」というテーマのもと、中流域の日野市で、2013年1月13日(日)に、都立日野高校を会場に、開催した。参加者は、発表者や実行委員も含め、これまでの学会でも最も多い、120名に及んだ。

午前中の2名の記念講演、午後の9名による一般発表が中心であり、内容的にも、昆虫、植物、野鳥、魚、地質と幅広い分野の研究成果や話題提供が行われた。(添付のレジメ集参照)

また、他には、プレイベントも開催され、最寄りの駅から学会会場までの、地元野鳥保護団体による早朝探鳥会も開催された。また、休憩時間には、浅川の竹で作ったリコーダー演奏・製作教室が行われたり、研究発表のパネルや標本等の展示、生きもの写真展なども、終日行われた。

NO209 源流景観の探求と「多摩川源流景観シンポジウム」の開催

木下 正之 (キノシタ マサユキ)

小菅村源流景観計画策定委員会 委員長

小菅村源流景観協議会は、平成24年9月29日、小菅村体育館で多摩川源流景観シンポジウムを開催した。シンポジウムでは、木下正之小菅村源流景観協議会委員長、船木直美小菅村長、馬淵広三郎公益財団法人とうきゅう環境財団常務理事がそれぞれ挨拶。続いて「景観計画1年間の取り組み」を望月徹男NPO法人多摩源流こすげ事務局長が、「多摩川流域から源流への思い」を鈴木眞智子多摩川流域ネットワーク事務局長が報告した。

「源流景観の特性 その保全と活用法」と題して中村良夫先生が記念講演。「源流の景観と文化を活かしたむらづくり」をテーマにしたパネルディスカッションでは、神谷博法政大講師、柴田隆行多摩川の自然を守る会代表、和泉恵之国土交通省京浜河川事務所長、酒谷幸彦山梨県土整備部長、中村文明多摩川源流研究所長がそれぞれパネリストになり、小菅村源流景観計画の中身とその活用法について活発に意見交した。宮林茂幸東京農業大学教授がコーディネータを務めた。小菅村は、この源流景観シンポジウムを景観むらづくりの第一歩と位置づけ、シンポジウムで提案された意見やアイデアを景観むらづくりに活用する計画である。

3 第5回「とうきゅう環境財団社会貢献学術賞」贈呈式を開催

平成 25 年 11 月 15 日、セルリアンタワー東急ホテルにて、

「とうきゅう環境財団社会貢献学術賞」は、財団が創立 35 周年を記念し、わが国の学術振興に資することを目的として設立した記念事業です。日本の環境分野において、学術的、社会的に特に顕著な業績（調査研究、科学技術の発展、行政施策、実践活動など）を挙げた研究者を表彰いたします。

2013 年 11 月 15 日、セルリアンタワー東急ホテルで第 5 回「社会貢献学術賞」贈呈式を行いました。今回は日本環境会議からの推薦により、大阪市立大学名誉教授・滋賀大学元学長の宮本憲一氏が受賞されました。同氏は 1960 年代初頭から公害・環境問題の調査研究に取り組み、環境保全型経済社会のための思想・理論・政策の分野でパイオニアとして活動を続けてきました。

■受賞者プロフィール■

宮本 憲一（みやもと けんいち）

大阪市立大学 名誉教授
滋賀大学 元学長

<略歴>

1953 年 3 月 名古屋大学経済学部卒業
1953 年 4 月 金沢大学法文学部助手
1955 年 4 月 金沢大学法文学部講師
1960 年 3 月 金沢大学法文学部助教授
1965 年 4 月 大阪市立大学商学部助教授
1972 年 1 月 経済学博士（京都大学）
1972 年 10 月 大阪市立大学商学部教授
1993 年 3 月 大阪市大定年退職
1993 年 4 月 立命館大学産業社会学部教授
1994 年 4 月 立命館大学政策科学部教授
2000 年 3 月 立命館大学退職
2001 年 7 月 滋賀大学長
2004 年 7 月 滋賀大学長退職。立命館大学客員教授
2013 年 3 月 立命館大学退職
現在 大阪市立大学名誉教授 滋賀大学名誉教授



<学界などの活動>

1997 年 7 月 日本学術会議会員（第 17 期、第 3 部）
1967 年 4 月 日本財政学会理事 後に常任理事を経て現在顧問
1992 年 4 月 日本地方財政学会理事代表を経て翌年から 2005 年まで理事長
1986 年 4 月 日本地方自治学会理事を経て 1989 年まで理事長、現在顧問
2004 年 4 月 日本地域経済学会理事長、2007 年より顧問
1998 年 4 月 日本環境経済・政策学会理事、2005 年まで

<受賞>

2005 年 10 月 久保医療文化研究所より久保賞
2006 年 11 月 京都新聞より文化学術大賞
2011 年 11 月 Asia-Pacific Ngo's Environmental Conference より Outstanding Contribution Award
2012 年 9 月 環境経済・政策学会より特別賞

<主要な環境問題に関連する著書・外国語論文>

『恐るべき公害』（庄司光共著、岩波新書、1964 年）『社会資本論』（有斐閣、1967 年）『日本の環境問題・その政治経済学的考察』（有斐閣 1975 年）
『都市経済論』（筑摩書房、1980 年）『現代の都市と農村』（NHK 出版、1982 年）『日本の環境政策』（大月書店、1987 年）『環境経済学』（岩波書店、1989 年）『環境と開発』（岩波書店、1992 年）『環境政策の国際化』（実教出版、1995 年）『公共政策のすすめ』（有斐閣、1998 年）『日本社会の可能性』（岩波書店 2000 年）『維持可能な社会へ向かって』（岩波書店、2006 年）『環境経済学 新版』（岩波書店、2007 年）『環境経済学』は韓国版、中国版、台湾版が出ている。
Les Problemes de l'environnement du Japon” Centre d’etudes de l’Asie de L’Est ed., Le Japon ,No.1 Avril 1980 Montreal
“Balance Sheet of Development through the Industrial Complex” Alternatives: A Journal of World Policy, vol.7 no.4 1981
Industriepolitik: Zentralismus und Gigantomanie zu Lasten von Umwelt und Gesundheit” ,Shigeto Tsuru und Helmut Weidner herausg.,”Ein model fur uns : Die Erfolge der Japanischen Umweltpolitik” 1985, Koeln
Qualita dell’ambiente in Giappone: Poblemi,Legislazione e Risultati” DOCTER, Annario Europeo dell’ Ambiente, 1988 Millano
“Toward a Sustainable Society “ Chiang Mai University Journal Vol. 2 No.3 September-December 2003
K.Miyamoto , K. Morinaga, H. Mori eds., “Asbestos Disaster” Springer 2011
“Japanese Environmental Policy -Lessons from Experience and Remaining Problems” I. J. Miller , J. A .Thomas and B. L .Walker eds.,”Japan at Nature’s Edge” University of Hawai’i Press 2013

「いきもののつながり」環境紙芝居 15のおはなし

No.14 水辺の冬のいきものの様子

冬の水辺は、越冬のために北の国から渡ってきた鳥たちが賑わいます。水面にいる、マガモ、オナガガモ、コガモ、ヒドリガモなどといったカモ類は、大型で動きが少ないので肉眼でもしっかり見ることができます。

画面左手の枯れたアシ原には、カシラダカが餌を求めて群れています。やはり越冬のために訪れているコミミズクは、昼の間はアシの枯葉などの中でわからないようにじっと休んでいて、夕暮れになるとネズミなどを狙って飛び立ちます。木の枝には、民家の庭先でも見られる冬鳥のジョウビタキ（オス）が止まっています。グレーの帽子と胸から腹にかけて鮮やかなオレンジのエプロンがとてもオシャレです。

冬の来訪者である冬鳥のほかにも、一年中いる留鳥のキセキレイやセグロセキレイが尾を上下にツンツンさせながら、河原で餌を探している姿をよく見かけます。また、河原が大好きなカワラヒワが、夏から秋にかけて黄色い花を1日だけ咲かせた後の、メマツヨイグサの種などを食べに来ています。未消化の種子は、ちゃんと糞にくるまれ、肥料付きで大地に還されます。

また、トビやユリカモメは、生きものの遺骸を主な餌とし、食物連鎖の大切な役割を担っています。

寒く冷たい水辺の土手では、タンポポやスイバのロゼットが寒風を避けながら、太陽の光をいっぱい取り込めるように地面にびたっと葉を広げて春を待っています。木の枝に産みつけられたオオカマキリの卵のうからも、温かな春を待つ小さないのちの音が聞こえてくるようです。

このように、水辺では四季を通じて、いきものたちの工夫、いのちのつながりの不思議をたくさん学ぶことができます。



絵：大田黒 摩利

「いきもののつながり」制作プロジェクト
代表 下重 喜代

発行 サステナブル・アカデミー・ジャパン
E-mail: kiyo-sun@nifty.com

当財団の概要 (2014年3月1日現在)

| | | |
|---------------|--|--------|
| 設立 | 2010年10月1日 | |
| 主務官庁 | 内閣府 | [常務理事] |
| 基本財産 | 978百万円 | [監事] |
| 財源 | 基本財産等の運用収入並びに寄付金 | [評議員] |
| 事業内容 | 研究助成事業 | |
| 1 研究助成 | 総助成件数 1,152 件 (新規 549 件, 継続 603 件) 総助成金額 1,360 百万円 | |
| 2 学習支援 | 副読本制作配布 278 千部 | |
| 印刷刊行物 | 研究助成成果報告書学術編 研究助成成果報告書一般編 環境副読本(毎年)7,000部 | |

| | |
|--------|------------------------|
| 中村 英夫 | 東京都市大学 元学長 |
| 中村 良夫 | 東京工業大学 名誉教授 |
| 涌井 史郎 | 東京都市大学 教授 |
| 小野木 喜博 | 当財団 事務局長 |
| 岩田 哲夫 | 東京急行電鉄株式会社 常勤監査役 |
| 井原 國芳 | 東京急行電鉄株式会社 顧問 |
| 海老原 大樹 | 東京都市大学 名誉教授 |
| 上條 清文 | 東京急行電鉄株式会社 相談役 |
| 越村 敏昭 | 東京急行電鉄株式会社 取締役会長 |
| 佐々木 謙二 | 横浜商工会議所 会頭 |
| 鈴木 學 | 株式会社 日立製作所 技監 |
| 高橋 裕 | 東京大学 名誉教授/選考委員長 |
| 鳥井 信吾 | サントリホールディング株式会社 取締役副社長 |
| 水田 寛和 | 株式会社 東急百貨店 顧問 |
| 山口 裕啓 | 学校法人 五島育英会 理事 |
| 山田 長満 | 川崎商工会議所 会頭 |
| 横溝 英樹 | 株式会社 東芝 総合営業推進部長 |
| 高橋 裕 | 東京大学 名誉教授 |
| 奥山 文弥 | 東京海洋大学 客員教授 |
| 小堀 洋美 | 東京都市大学 教授 |
| 小宮 輝之 | 上野動物園 元園長 |
| 斎藤 潮 | 東京工業大学大学院 教授 |
| 新藤 静夫 | 千葉大学 名誉教授 |
| 鈴木 信夫 | 昭和女子大学 客員教授 |
| 田畑 貞寿 | (公財) 日本自然保護協会 顧問 |
| 土屋 十圀 | 前橋工科大学 名誉教授 |
| 寺西 俊一 | 一橋大学大学院 教授 |

役員・評議員

(敬称略 50 音順)

[選考委員]
(◎は委員長)

| | | |
|-------|--------|------------------|
| [理事長] | 西本 定保 | 東京急行電鉄株式会社 顧問 |
| [理事] | 新井 喜美夫 | 当財団 元理事長 |
| | 池島 政広 | 亜細亜大学 学長 |
| | 石渡 恒夫 | 京浜急行電鉄株式会社 取締役会長 |
| | 植木 正威 | 東急不動産株式会社 取締役会長 |
| | 大須賀 頼彦 | 小田急電鉄株式会社 取締役会長 |
| | 加藤 隼 | 京王電鉄株式会社 取締役会長 |
| | 小長 啓一 | 東京急行電鉄株式会社 取締役 |
| | 小沼 通二 | 東京都市大学 名誉教授 |

- 発行日 平成26年3月1日
- 編集兼発行 公益財団法人とうきゅう環境財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル5F)
TEL (03)3400-9142
FAX (03)3400-9141
ホームページ <http://www.tokyuenv.or.jp/>

